

麓・老神地区の『復興まちづくりへの想い』について～第1回懇談会の意見概要～

※ 第1回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路	・どこに避難すればよいのか。保健センターまでの道が狭い、また胸川沿いなので、第一中学校を指定避難所に設定して欲しい。 ・災害時、胸川の橋を渡るのは難しい。胸川の東側の避難所を住民間で検討する必要がある。 ・自主避難所を検討する。 →町内ごとに寺社と協定を結び、自主避難所として活用する。（田町は既に東林寺にお願いしている）
	避難誘導 要支援者対策	・消防団として、早期避難の呼びかけなど、やれることがあったのではないかな。 ・見守りが大事。仮暮らしをされている町内の住民がどこに住んでいるのか把握できていない。個人情報観点から、市から住民の情報をもらうことができない。 ・発災の把握が遅れて逃げ遅れてしまう。 ・町内会長が災害対応について十分に理解していなかったため、避難の呼びかけなどが遅れた。また発災後の情報も住民に伝えられていない。 →会長の引継ぎが十分できていなかった。 →全町内会長には出水期までに防災ラジオを配布すべきである。 →会長が全てのことを出来ない。会長が被害を受けた場合、町内の他の住民のケアをすることができない。負担を軽減・分散する必要がある。（想定外の災害レベルであり、会長だけに対応を求めることはできない） →消防団が町内会長の引継ぎに同席して 町内会長宅の防災無線の設置など防災に関わる引継ぎを強化する必要がある。
防災	自主防災	・過去浸水したことがなかったので、自主防災組織を立ち上げていなかった（南寺町）。 ・道路を挟んで電気・水道のあったところとなかったところが明確に分かれた（田町）。住民間で、町内で防災の決まり事をあらかじめ考えておく必要がある。
住まい 再生 ・ 住 まい 再 建	住まい再建	・被害の少なかった町内なので浸水した家屋の片付けが終わっていない住民もいる。周辺住民で片づけたケースもある。疲れて病気になった住民もいる。 ・公費解体の順番待ちの状況である。 →時期について一応環境課に確認して欲しい。時期がある程度分かるケースもある。
治水・その他	他地区	・被害の大きかった町内（特に「新町」）の今後が心配である。
	情報発信	・住民が今後の再建やまちづくりに不安を感じている。復旧・復興の取組みの進捗状況を住民に伝えて欲しい。（例）具体的なスケジュールや事業内容 ・防災ラジオの全戸配布等、行政から住民にしっかり情報を伝える必要がある。
	参加メンバー	・参加者数が少ないので、もっと多くの住民（若い世代をはじめ様々な住民）に参加と一緒に話し合っていきたい。 →口コミが最も効果的なので、日頃の住民との会話の中で参加を促していく。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.1

麓・老神地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第1回・第2回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

麓・老神地区の対象地区は、麓町、老神町、田町、南寺町です。

◆第1回地区別懇談会

1 復興計画、復興まちづくり計画についての説明

- ・復興計画等の概要説明
- ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
- ・これまでの校区别座談会の概要

2 地区ごとの話し合いと全体共有

- ・顔合わせ、自己紹介（想いや困り事など）
- ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声かけ



4月17日（土）18時から、人吉東小学校体育館

◆第2回地区別懇談会

1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

- ・前回懇談会の振り返りと情報提供
- ・治水対策とまちづくり・避難の考え方
- ・復興まちづくりに係る各種支援制度や事例の紹介

2 地区ごとの話し合いと全体共有

- ・出水期に向けた避難等のあり方
- ・復興まちづくりへの具体的な課題と方向性
- ・今後の進め方、次回日程調整、連絡体制の確認



5月11日（火）18時から、人吉東小学校体育館

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・4～10月までの間に、概ね月1回（合計8回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：第3回 6月15日（火）18時00分より

次回のテーマ予定：復興まちづくりの課題と方向性について

会場：人吉東小学校体育館

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

※ 第2回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		出水期に向けた避難等のあり方 復興まちづくりへの具体的な課題や方向性について
避難等のあり方	避難場所	・胸川を挟んだ東西で、各々避難所を設ける。 ○西側は第一中学校（新庁舎は将来的な利用、医療センターや裁判所は2階以上の垂直避難場所として利用を想定（今後協定を検討）） ○東側は相良神社、林鹿寺、東林寺（既に田町と協定締結済み） ○原城は高台に位置するため、別町内への避難はない ・保健センターまでの道が狭く、川沿いに立地しているために危険である。 ・指定されていた新町町内会館は今次の水害で浸水被害が発生したので、今後避難所として使用することは考えにくい。
	避難ルート	・胸川に架かる橋（田町橋他）は増水・越水等に関する不安がある。 ・西側の住民の第一中学校への避難には問題ない。 ・東側の住民の各寺社への避難には問題ない。 ・相良神社については、災害前は敷地に駐車することができた。現在は神社前に仮設住宅団地があるため、駐車できない。 ・田町の急傾斜地他に対する道路拡幅・法面の強化は必要ない。 ・市の出前講座を有効に活用し、マップを作成するなどする。
	避難誘導 要支援者対策	・田町は55戸中、27戸が高齢者世帯である。75歳以上のリストを作成し、各班長にあらかじめ配布・分担している。 ・会長が住民に対し、避難を連絡する。避難を判断するタイミングが難しい。また、町内会長ができない場合に誰が避難を呼びかけるのかを決める必要がある。※班長への負担をどの様に軽減するか、「自主防」の確立。 ・新町は75歳以上の連絡網を作成している。 ・避難行動要支援者のマップを作成した。避難後の結果を会長に集約する。 ・高齢者の逃げる手段を確保する必要がある。
	避難情報	・早めの避難が重要。 ・高齢者も携帯電話を使っているので、エリアメールなどの早期の避難情報の発信が有効である。 ・行政・消防も「空振り覚悟」で避難を呼びかける。
復興まちづくりへの課題や方向性	治水 土砂対策	・中川原公園は必要なのか。流れを止めている原因ではないか。

